

特任研究員審査結果報告

特任研究員審査委員会委員長
矢部康男

「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」で採用する特任研究員の審査結果を以下の通り報告します。

審査経緯

- 2016年12月14日 特任研究員雇用申請受付開始
- 2017年1月20日 同締切(申請件数4件)
- 2017年1月28日 地震研究所企画部室にて審査委員会を開催。
委員は、谷岡勇市郎(戦略室長)、加藤尚之(企画部長)、吉田真吾(地震研究所地震火山噴火予知研究推進センター長)、矢部康男(予算委員長、スカイプで参加)。
互選により、矢部を委員長に選出。
申請書に基づいて審査し、採用、補欠、不採用の判定をした。
- 2017年2月3日 申請者に審査結果を通知。
- 2017年2月7日 採用者から辞退の申し出があったため、補欠を繰り上げて採用し、その旨を申請者に通知。

採用した申請の概要

- 申請者所属・職名・氏名
京都大学防災研究所・教授・飯尾能久
- 研究課題名[課題番号]
横ずれ型の内陸地震発生の物理モデルの構築[1907]
- 特任研究員
Angela del Valle Meneses Gutierrez(名古屋大学環境学研究科博士後期課程)
- 特任研究員の研究分担内容(申請書より抜粋)
横ずれ型の内陸地震発生域周辺において、GNSSと干渉SARデータから地殻変動分布を詳細に把握し、地殻変動のモデル化を行う。西南日本活動期のシミュレーションに関しては、上記のモデル化によって得られた地域ごとの内陸地震震源断層の応力蓄積と南海トラフのプレート間相互作用による広域的な応力変化の両方を考慮して、南海トラフ巨大地震前後の西南日本における内陸地震活動の活発化を再現するシミュレーションを行い、各地域における地震発生可能性の検討を行う。